

http://www.shiraishi-keiko.net e-mail info@shiraishi-keiko.net

民主党練馬クラブ

# 区政 レポート

# 白石けい子



練馬区貫井育ち、高松在住。昭和29年生。練馬二小・貫井中・都立第四商卒。保育士・社会福祉主事。NPO法人ケアステーションぽかぽか理事長  
「保育&介護」施設を高松にて提供中。第16期区議会に、福祉現場の声を届けるため区議会議員となる。現在、環境まちづくり委員会所属、医療・高齢者等特別委員会委員長。家族 夫・子ども4人 犬・猫1匹づつ

15

発行 民主党練馬クラブ  
練馬区豊玉北6-12-1西庁舎6F  
Tel 03-3993-1111(内7621~5)  
fax.03-3993-1197

これで良いのか？練馬区防災対応！  
初動体制の問題点が浮き彫りに

三月十一日の「東北地方太平洋沖地震」。我が練馬区では、地震発生当初八十九件の被害報告だったが、その後、家屋の一部破損二百二十六件、塀の破損八十一件、その他四十六件が報告された。それに合わせて、初動体制の問題点が発覚した。志村区長は日頃より、『「自助・共助・公助」・「災害につよいまち」として万全を期している』と公言していたが、それには程遠いお粗末な体制が浮上。今後に大きな問題点・課題点を暴露したことになった。会派として、緊急報告する。

### 【問題1】発生後 一人下校させた？！

地震発生時の小中学校のマニュアルでは、保護者引取りが原則。ところが、一人下校をさせてしまった学校が数校あった。

### 【問題2】帰宅困難者対応は校長一任？！

避難拠点の開設二十六拠点約六百名というが、その際の陣頭指揮は、校長に一任。不安な一人暮らしの高齢者や都市部に帰宅できない人など、様々な人たちが集中したのに、



### 校長一任でよいのか。

### 【問題3】えっ、区立保育園だけの情報収集で？！

翌朝まで、保護者が迎えに来れず、預かった公立保育園児9名、学童クラブ児童3名、中学校生徒1名等と報告。区内には、認証保育園や、認可外保育室なども多くあり、なぜ、公立系のみで調査を終了したのか。

### 【問題4】何のための要援護者名簿？！

地震発生後、名簿管理をしている地域福祉課との連携の不備が露呈。区

帰宅のための足が完全に奪われた。保育園、幼稚園、小学校……子どもの引き取りにも影響が……

民からの援護希望者を募った約一万人余の安否確認体制はどうなるのか。

### 【問題5】絵に描いた「防災無線」一方通行の情報提供に切り換えた？！

余震や計画停電の情報を提供するべき体制の一つである防災無線が、アナウンスする職員がいない。聞き取りにくいとの声があることからウェブ情報のみとした。

電話は増設するも、「なかなか繋がらない」と区民の苦情も多く、不安をより取り立てる結果となった。

七十万人民への情報提供は、行政の重要な責務である。

### 【問題6】燃料不足に対応せず？！

人工透析患者の通院、要介護者・障害者に対する通所事業における送迎に使われる車の燃料は、まさに死活問題であった。協力店の確保と各事業者へ情報提供を提言したが、耳を貸さず、災害協力店のGSを二カ所確保したのは、騒動終息後であった。行政主導の無さが露呈した。

### 【問題7】放射能測定、独自調査しないのか？！

原子力発電所の事故による放射能の検査を都健康安全研究センター（新宿区）の観測データだけに頼るだけでよいのか。武蔵野市では、二、三日に独自設置をした。練馬区は、区民の安全をどのように考えているのか。

### 【問題8】公的施設全部が自粛閉館？！

建物の耐震力もある建物までも、なぜ、31日まで一斉閉館をしたのか。地域の情報提供・援助機能のある施設まで閉館してよいのだろうか。

# 民主党練馬クラブは、 「防災対策の重要性」 を訊いてきた

党派として、これまで、区長に「防災対策・危機管理体制」について様々に訊いてきた。その主な活動・質疑項目を再点検。今後取り組むべき施策について提言する。

## 【耐震化への促進を】戸建

住宅等の耐震化の達成率が低い。また、同時に、耐震ベッド・防災シールドの普及に努めるべき。  
【医療機関の充実】後方医療機関は十九カ所。だが、耐震化が十分でない病院は十カ所もある状況。また、医療救護所避難拠点（区立中学校の一部や、公共施設の計十二カ所）においては、より医師会との協議し、一定の医療行為ができるよう医療用自家用発電装置も設置すべき。医療物資備蓄も薬剤師会連携の下、整備すべき。

## 【周波地震の対策を】長周期地震と高層ビルで起きる低周波地震があること

への対策が急務  
【帰宅困難者の体制】高速道路の出入り口近くや、幹線道路沿いにある避難拠点には帰宅困難者が殺到することが予想される。職員の行動マニュアル・初動体制の構築が重要となる。

## 【弱者各体制を】要援護者名簿や地域の状況を、

区のGIS（統合型地理情報）に集約し、全庁的な情報で、迅速な対応を可能にすべき。  
【地域の力の共助は】地域のコミュニティが大きな力を発揮していく。防災リーダー・コーディネーターの育成だけを重視するのではなく、町会自治会との地域の関係づくりが大

## 【南相馬市からのSOS】

震災から一週間目の土曜日に、知り合いから一本の電話。「南相馬市の家族七人が、練馬区の親戚を頼りに車二台で避難してきた」とのこと。2DKのマンションに身を寄せるも、使用した車の保管方法について、区に相談したが、「現在、検討していません」と即時対応の様子がない。コインパーキングのハシゴでは負担が大きい。緊急避難でSOSを出しているのに、なぜ練馬区は？と、怒りの相談を受けた。

目今のSOSに対処するのは当然のこと。迷わず独自判断で、議会時使用の専用駐車場に誘導。週明けに、各所管に報告し、数日後、速やかに区の指定した駐車場に移動。現在は、厚木市の市営住宅に移動されたとのこと。

## ドキュメント大震災

我が練馬区では

また、区は、被難者受入れと旧光が丘第一・第七小学校を準備するも、自力避難者のみが対象。これでは、行政区を越えた人道的対応にも消極的な姿勢としか見えず、本当の支援体制とは言えない。

## 【ガソリン供給は自助努力…練馬区の対応は??】

震災直後から起こった「エネルギー・パンニック」。介護サービス・障害者通所サービス事業者・人工透析患者を病院送迎する移動サービス事業者の現場は、死活問題となった。毎日、互いに連絡を取り合い、情報交換をするが、解決策はない。ひたすらGSでの忍耐待ち。しかし、給油の保証はない。品切れ状態が続く中、何とか、打開策を見出すべく、区の窓口に交渉。だが、区の答えは不動「何とか自助努力で」の返事に啞然

とした。地元の都議会議員・衆議院議員にも連絡。都や国の迅速な対応を求めた。しかし、これも風穴は開かなかった。

数日後、災害協力店となっているGSの一事業者が、行政の判断を待たずに、介護事業者に対し、専用提供をしてくれ、何とかセーフ。それまで三時間待ち、四時間待ちと命がけの給油バトルであった。その頃、都より「デイサービスの送迎が困難なら、訪問介護に切り替えては…」と、「デイサービスの事業者からすれば、「えっ?」と耳を疑つよつなお知らせがあった。

また、通所サービスを利用する障害者の家庭から、家族が自宅で見守る負えないことから、体調を崩してしまったとの話も聴いた。これでもいいのか、練馬区の災害時危機管理体制?

## 【食料の備蓄体制は】避難

切。コミュニティFMなどを新設をし、情報ツールとマンパワーとの連携から総合的な災害体制を。

## 【ペット同行避難対策は】

拠点にある災害時の食料備蓄は一定の基準は設けられているが、高速道路の出入り口・幹線道路沿いの地域住民以上の人の殺到が予測される。広域な災害となった場合、災害

## 【街の電気・水道・商店が頼りになる】

地域の専門職

は、災害時の大きな一役を命を守ることを教えていく。くには、興味の導入から、の学習が大きな効果を

## 【今こそ防災ヒーローの誕生を】

子どもたちが自らの

【発行記】このたび発生いたしました東北地方太平洋沖地震の被害に遭われた皆様、関係者の方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。地震発生時、区議会では、他の会派提出の予算の組み替え動議の審議を終了行っていました。今思えば、議会を中断してでも、区内各地域に駆け参るべきであったと……。危機管理の在り方は、行政体制だけではなく、議会側も構築が必要。来期の課題は、議会改革と合わせて考えていくべきと痛感致しました。